

令和 8 年度自己評価表 （中間）

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)	改善策
					令和 7 年度	令和 8 年度		
確 かな 学 力	他者と協働し、主体的に学び続ける。	学力の向上	○「学びの基盤づくり」で学習の土台を固める。 朝学習・ぐんぐんタイムの充実 (音読、暗唱、漢字、計算等の習熟) ○語彙力、文章の読み取りの力を高める。 読書活動の充実 (読書タイム、読書ボランティア、週末読書等)	〈新〉○江田島市学力調査達成率との比較 目標値達成率 7 0 % 以上 目標値達成者数÷受験者数× 1 0 0 〈新〉○単元テストの平均 7 5 % 以上の児童の割合 7 0 % 以上 国語 読解力 (思考・判断・表現) 国語 言葉、漢字 (知識・技能) 算数 (思・判・表) 算数 (知・技) 〈新〉○年間 40 冊以上本を読んだ児童 8 5 % 以上	—	〈新規〉 国 7 0 以上 算 7 0 以上 国 (思) 7 0 % 国 (知) 7 0 % 算 (思) 7 0 % 算 (知) 7 0 % 〈新規〉 40 冊以上読書した児童 8 5 % 以上	未実施 未実施 国 (思) 72.1% 国 (知) 71.3% 算 (思) 49.6% 算 (知) 76.7% 18 冊以上読書した児童 47.8% (8 月末まで)	江田島市学力調査は、12 月実施のため未実施。単元テストの平均 75%以上の児童の割合は国語 (思) (知)、算数 (知) において、目標値を達成している。しかし、算数 (思) においては、目標値を大きく下回っている。算数の学習の中で、思考力・判断力、表現力を高めるために、理由を説明する機会を意図的に取り入れる場面を増やす。その際には、教科書に沿って、例を示し、説明の仕方を学ぶことができるようにする。 読書冊数が 47.8%と本を読んでいる児童が学校全体の半数弱という結果になった。読書冊数を増やすために、委員会で図書室に行きたくなる取り組みをしたり、ポケとしよの活用をしたりしていく。
			○算数科チーム、国語科チームによる授業改善 ・自学と協働的な学びを組み合わせた授業づくりに取り組む。 ・児童が見通しをもって学習を進められるように、学び方や学びの進み具合についての振り返りを授業に位置付ける。	①自律的な学習意欲 (動機づけ) に関する意識調査 (4 年以上) (2 回: 4 月と 1 月) ② 学習調整行動 (見通し・協働・自律 etajima ③) についての意識調査 (3 年以上) (2 回: 4 月と 1 月)	①同一化的調整 (価値・重要性) 11.02→10.8 ②見通し項目 3.22→2.78 協働項目 (3) 3.30→3.03 自律項目 (9) 3.40→3.01 ③見取りと働きかけ 4.13	①同一化的調整 10.0 以上 (昨年度を維持) ②全ての項目 3.0 以上 (昨年度を維持・上昇)	① 同一化的調整 11.0 ② 見通し項目 3.01 協働項目 (3) 3.08 自律項目 (9) 3.17	① どういう姿が自律的に学ぶ姿なのかを、教師間で共有し、共通意識をもって指導にあたる。また、学年に応じて児童とも自律的に学ぶ姿を共有していき、価値づけていく。 ②学習の見通しがもてるよう、学習計画表を提示し、教室内に拡大したものを掲示する。いま何を学習しているのかを随時確認していく。また、振り返りでは、振り返りの視点を児童に与え、それを手掛かりに振り返りができるようにする。さらに、振り返りの質を高めていけるよう、教師間で共有する時間を設ける。
豊 かな 心	自らを律し、他人を思いやり、夢や目標に挑戦する。	社会性の育成 *規範意識の高揚とルールの定着	○学校全体の取組を徹底する。 (あいさつ、黙って掃除、身の回りの整頓) ・教職員が児童の手本となる。 ・学校生活の課題を基に児童自身に月ごとの生活目標を設定させ、自己評価させる。 ・全職員で随時、全児童の評価を行う。	○教師と児童の見取りによる達成率 あいさつ、返事 黙って掃除・身の回りの整頓	92.2% 90.6%	90% 90%	○あいさつ、返事 児童 85% 教師 86% ○黙って掃除 身の回りの整頓 児童 83% 教師 86%	・教師が手本となって、あいさつ・返事・整頓・掃除を行うことを確認する。またあいさつや返事を児童が行うまで指導すること心掛ける。 ・生活目標について、各学級で 90%達成を目標に取り組むことを続ける。これまでの達成率を示し、より目標を意識した取り組みができるようにする。
		自己肯定感の育成 *自己有用感・自己効力感の向上	○体験的な学び (さとうみ学習等) を通して、児童一人一人を尊重し、自己有用感、自己効力感の向上を図る。 ・教師が児童と関わり、細やかによさを認め、言語化する。 ・他者評価により自信をもたせる取組。「自分が他者に必要とされている」 ・日々の授業で小さな達成感や成功体験を味わわせる。「自分ならできる」	○自己有用感に関する 児童の肯定的評価の割合 (アンケート) ○自己効力感に関する 児童の肯定的評価の割合 (アンケート)	83.5% —	85% 〈新規〉 85%	85% 83%	・教師のアンケートで、他者評価により、自信をもたせる取り組みを行ったという項目において、68%ととても低い結果となっていた。これから学習発表会に向けての練習が始まるため、児童全員が認め合える雰囲気を作り、教師が意図的に児童を見本にして活動を進めていけるようにする。また、教員間で児童同士が認め合える活動をどのように仕組んでいるか、共有する時間を設ける。
健 や かな 体	自己管理能力を高め、主体的に自らの健康や体力の向上を図る。	健康で自律した生活習慣の育成	○学活・保健朝会・ミニ保健指導において、メディアコントロールを中心とした保健指導を 5 回以上実施し、規則正しい生活リズムの定着を図る。 ○年 3 回生活リズムチェックを実施し、課題のある児童の個別指導を行う。	○生活リズムチェックにおける「メディアコントロール」項目の合計達成率 8 0 % 以上を目指す。年間 3 回実施し、生活リズムウィークを通して、1 学期 8 4 %、2 学期 8 5 %、3 学期 8 6 %。	1 学期 83.4% 2 学期 86.3% 3 学期 83.8%	1 学期 8 5 % 2 学期 8 5 % 3 学期 8 5 %	1 学期 88.3% 2 学期 88.5%	・保健指導や日々の生活指導により、生活リズムウィーク中のメディアコントロールの結果は、目標値を達成することができている。今後も、規則正しい生活リズムを定着させるよう、引き続きメディアコントロールを中心とした指導を実施していきたい。
		体力・運動能力の向上	○体力の向上をめざし、ドリル運動等を組み込んだ授業改善、外遊び及び全学年の体力向上運動の充実を図る。	○反復横跳びにおいて、体力・運動能力調査の全国平均を上回る児童の割合。 ○2 分間走において、各学年で設定した目標値達成の割合 (4 月のタイムから 1 年かけて 8 秒縮める)	7 3 % 達成した学年数 1 学年	7 5 % 達成した学年数 3 学年	7 3 % 達成した学年数 1 学年	体育の授業の中にラダー運動を入れたり、体育朝会で積極的に取り入れたりしていく。反復横跳びを学期ごとに計測し、自分の目標を意識させる。2 分間走は各学年で決めた目標値にどこまで近づけたか経過を放送し、児童の意欲を高める。
地 域 と 共 に あ る 学 校	積極的に情報を発信し、地域・保護者との連携を図る。	学校運営協議会の効果的運用	○学校運営に参画する視点の持てる協議を通して地域とともにある学校づくりを進める。 ○運営委員の方を通じて、地域の方との繋がりが、学校に関わってもらえる人を増やす。	〈新〉○地域、保護者、外部講師など、学校の教員以外の人が、校内で活動、参観、打合せをしている日数。	—	〈新規〉 年間 70 日以上	79 日 (8 月末まで)	学校運営協議会では、熟議の時間を精選し、目指す子ども像を確認する上で、「地域と一緒に何ができるか」という具体的なテーマを設定して協議を行う。
		さとうみ学習や地域学習の推進	○外部講師等と連携した学習環境を増やす。 ○さとうみ学習や地域学習など、他教科との横断的な学びを展開させる。	〈新〉○さとうみ学習等の学びを充実させ、教科等に生かすことができた肯定的に評価する教員の割合。 〈新〉○「自分の住んでいる地域が好き」と回答する児童の割合。	—	〈新規〉 80%以上 〈新規〉 90%以上	80% 97%	実際に何に取り組んでいるのかということを可視化することで、全体の意識向上と、取り組みについての肯定感を高める。 各学年で、今年度の取組から、教科横断カリキュラムマップを作成する。
		働きやすさ、働きがいの両立	○CS の導入により、「児童と向き合う時間」を確保する。 ○業務改善に係るアイデアを出し合う。	〈新〉○1 か月時間外在校等時間 45 時間以下の割合 ○1 年間外在校等時間 360 時間以下の割合 ○仕事にやりがいがあると感じる職員の割合	—	〈新規〉 100% 〈新規〉 100% 〈新規〉 85%	100% 42% 73%	企画委員会で、業務改善ができる内容の集約を続けると同時に、助かっていること、やってもらってよかったことも抽出し、充足感を促す。